

岐阜大学

# キャリア支援部門 ニュース



<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>



## これから進路を考える皆さんへ

**坂口 菜朋子**

教育推進・学生支援機構  
キャリア支援部門副部門長



学生の皆さんはどのような進路を考えていますか？自分の専門と関連のある場所で働きたいですか？あるいは現在学んでいる分野とは違う仕事がしたいですか？それともまだ考える必要はないと思っていますか？

現在の私は大学時代の専門・研究内容とは一見するとつながりのない仕事をしています。

私がドクターコースを修了する頃、所属研究室の先輩や同級生は指導教授から紹介されるポストに就職しており、私もそのつもりでした。しかし諸般の事情から提示されたポストを断った結果、支援を得られなくなり、手探りで就職先を探し始めました。無事4月から研究所の研究補助員に採用され、その3ヶ月後に大学で任期付研究員（ポスドク）のポストを得ることができました。その後約10年間、専門や場所を変えて研究を続けてきましたが、任期満了年度になって次の研究の場を探し始めると、再び壁にぶつかりました。様々な情報に当たる中、国がポスドク対象キャリア支援事業を実施していることを知り、思い切って相談したところ、ポスドクが活躍している場が研究以外にも多くあると教えられました。長く続けてきた研究を離れることには大きな不安がありましたが、未知の分野への好奇心や期待が不安を上回り、挑戦することを決断しました。

その結果、それまで全く知らなかった職種であっても、過去に受けた教育や、研究を進める過程で得たスキルや考え方が形を変えて応用できることがわかり、自分が考えていたよりもキャリアの選択肢はたくさんあったのだと実感しました。さらに新たな知識、人脈も多く得られ、視野もより広がりました。

私のように数年ごとに任期を迎える立場でなくても、就職活動において専門分野とは違う候補を検討する必要に迫られたり、就職後も部署の変更や転職、情勢の変化などで、全く新しい分野に取り組むことになるかもしれません。その時に専門はもちろん、それ以外の分野にも取り組む準備ができていれば、それだけ活躍の場を広げることができます。

これから進路を考える皆さんは、ぜひとも在学中に積極的に新しいことに挑戦し、自分の持つ種（経験・人脈・スキル）を増やしていただきたいと思います。例えば学内でも専門分野外の話題や国籍・年代の異なる人と接する機会は豊富にあります。また授業や研究で培われた知識や経験も、後にそのままの形でなくても応用できるはずです。今すぐに実を結ぶ種は少ないかもしれませんが、周囲にある貴重な機会を活かす意識を持ってください。皆さんが将来、様々な場所で活躍されることを願っています。

## 先輩社会人寄稿

### 私は社会でこう生きてきた

#### 山村 範彦

平成4年3月  
工学部精密工学科卒業



私は、工学部精密工学科を1992年3月卒業し4月に岐阜県大垣市に拠点を持つ現在の会社に入社致しました。当時は1990年から始まったバブル崩壊の真っ只中で、弊社も先行き不透明な状況が続いておりました。そんな中人材育成の一環として我々新入社員は三河地区の自動車組立て工場にて3ヶ月の現場研修を命ぜられました。交代夜勤も含め、徹底した管理の下作業に追われ苦しい日々でしたが、今思えばこの徹底的に無駄を排除した生産ラインに従事し、ものづくりを肌で感じられたことが私の企業人としての原点であったと思い返しております。自社に戻り生産技術者としてのものづくりの効率改善業務に就き、4年目にある新製品の開発プロジェクトに生産技術者として専任され、全くの手作りから年間数百万台の製品を生産する工程設計/設備開発を任せられました。開発目標と納期のプレッシャーに追われておりましたが、自ら構想を描き、試験装置を組み上げトライするという工法開発に没頭し1年半後に試験ラインを設置、更に2年後には現在でも弊社の主力である製品の量産1号ラインを導入、ラインオフでは感動で震えが止まらなかったことを記憶しております。現在では日本・欧州・中南米の工場から全世界に製品を供給しております。

開発の機会や上司・先輩・同僚に恵まれた事もありますが、自由な発想で熟考する、現地・現物での試験・解析+論理的思考、チャレンジを継続したことで成し得た結果であると振り返っております。在学中に学んだ、材料力学・流体力学・熱力学…当時は頭に入れることが苦痛でしかありませんでしたが、開発を進める上でありとあらゆる場面でこれらの論理が必要になります、全てを記憶する必要はありません、必要に面した時に、免疫があれば文献を調べ適用させ、論理的な道筋を自ら立てることができます。

日本のものづくり力は世界トップレベルであります、機能部門(技術、営業、管理部門)の生産性は先進国中最下位という報告もあります。打破するには、仕事の基本であるPDCAサイクルにおいてP(プラン)に重点を置き、計画段階で課題の真因を明確にし、リスク抽出と行動結果の推定を立てることができる人材を企業は求めております。

### 教育に携わるとは

#### 矢嶋 英敏

昭和51年3月  
教育学部英語英文学科卒業



この冬、初任校で1年間だけ担任した生徒から20年ぶりに電話があり再会した。「人生の転機には、先生に会いたくなる」と言った。再会した時、「先生が、『異動することになった。もう教えることはできない』と言った時の服装を今でも覚えている」とか、「先生にほめられて頑張るとまたほめられた」と、未熟で拙い指導しかできない私だったにも関わらず懐かしそうに語り、別れ際には「また上を向いて歩いて行く」と微笑んだ。

38年間の教職人生、胸を張って自慢できることはこれと言ってない。その時々には、日々の指導に悩み、教職の道から逃げようと思ったことが幾度かあった。共に喜び悩みながら子どもたちと歩み続けるという、当たり前の教育を貫くことができなかった。彼らの行為の表層しか見えず、そうせざるを得ない心の奥に思いを馳せることもなかった。それ故、教え子の同窓会には、毎回、自身の指導に対する懺悔の気持ちで参加をしてきた。しかし、彼らはそんな私の思いを推し量るかのように、同窓会の度に当時の私の指導について感じていたことを教えてくれた。「先生は真剣に叱ってくれたから、親には評判がよかった」「A君が先生に『どうせでめえは内申書に書くんやろ!』って叫んだ時、私は『先生が書くはずないやろ!』と思いながら二人を見ていた」などと。未熟な私だったが、辛いこと苦しいことから逃げず彼らと正対してきたことを、誇りに感じているのも事実だ。

そんな私は、折に触れ教育学者の森信三の言葉を読み返しながら歩んできた。

教育とは流れる水に文字を書くような果てない仕事です。しかし、それをあたかも巖壁にのみで刻みつけるほどの真剣さで取り組まなければなりません。教員がおのれ自身、赤々と生命の炎を燃やさずにいて、どうして生徒の心に点火できますか。教育とは、それほどに厳粛で崇高な仕事なのです。

学生の自主的活動支援

**報告** 華かがり振興チームの紹介

**田口 愛珠**  
応用生物科学部 2年



岐阜のイチゴ紹介の様子

私たち華かがり振興チームは、岐阜県のイチゴ品種「濃姫」「美濃娘」「華かがり」を岐阜大学生に向けて認知拡大することを目的に活動する団体です。華かがりが平成27年3月に出版され、岐阜大学で試食検討会が開催されたことを発端として、プロジェクトが始まりました。本プロジェクトの活動は2つのイベントの運営です。

1つ目は岐阜いちごコンテストの開催です。学部を問わず岐阜大学生からイチゴをモチーフとしたキャラクター部門とスイーツ部門のデザインを募集し、投票を経て1位作品を決定しました。考案されたスイーツは試食提供、キャラクターは華かがりのパッケージデザインとして利用されます。

2つ目はワークショップの開催です。幅広い所属・学年の学生が「岐阜いちごの販売展開」について考え、生産者と意見を交わす場を設けました。事前に収穫体験会を実施し、体験者の参加もあってグループワークでは多様な意見が見られました。3月には活動報告会を予定しています。

私たちの活動には、岐阜県園芸特産振興会いちご部会（生産農家）、J A全農岐阜、岐阜県農業技術センター、カネ井青果株式会社に振興のため非営利にもかかわらずご協力いただきました。

平成26年度岐阜大学長期インターンシッププログラム（GULIP）卒業生からの寄稿

**報告** キャリアセンターでの体験

**佐々木 憲史**（県庁チーム）  
平成28年3月工学部社会基盤工学科卒業

岐阜大学に編入して2年間、私はキャリアセンターという所に入出入りしていました。大学内にあるそのキャリアセンターはボランティア紹介や就職相談などをする場所の名前で、在学中に2種類のキャリアセンターを目にしました。

そのうちの1つはボラネットでの活動です。阪神淡路大震災以降、全国の大学でボランティアセンターが開設され始め、岐阜にもキャリアセンター内にボラネットができました。ボラネットはボランティアをしったり紹介するところですが、大学から活動を支援していただくためにプレゼンすることもありました。年間事業計画を立てて資金繰りを考えることも、学内の先生方にプレゼンするのも、難しくも貴重な経験でした。働きだしてからも予算をもらうために同じようなことをしているので、このときの反省も社会人1年目からバリバリ生きていきます。

2つ目はGULIPです。キャリアセンターのキャリア支援部門がGULIPという名前の授業を開講しており、2単位分が取れてかつグループワーク授業だったので、気軽に受講しようと思いました。すると、事前説明会で担当の廣瀬先生に、まだ受講してもないのに「大変やしやめるなら今やぞ」って脅かされるし、開講後も後輩ばかりのグループで気を使うし、歩く速さに定評ある私も講義室へ向かう足取りは牛歩をきめていました。先生の言葉通り、一つのテーマに半年間ずっと向き合わなければならないため大変でしたが、積極的に最後まで取り組みました。この半年間のおかげで、いまでも職場で物怖じせず先輩や上司に迷惑をかけることができている。

今年から私は社会人となり、初めての連続です。キャリアセンターという場所でも、普通の学生生活だけでは味わえない初めての体験をさせてもらえます。私はこの機会を与えてくれた人たちに着た恩を忘れず、少しずつ返しながら社会で生きていきたいです。



県庁チーム

岐阜大学フェアin高山に参加して

**報告** 学生ボラネットの活動

**奥村 菜月**  
応用生物科学部 3年

私達学生ボラネットは、11月12、13日に開催された「岐阜大学フェアin高山」に参加させていただきました。ボランティアには素晴らしい魅力があります。それは多くの方々との出会いです。ボランティア活動先では、その活動の実行委員の方や学生に会うことができます。様々な方と接することで、新しい価値観を得ることができ視野が広がることができます。高校生の方々にこのようなボランティアの良さを知っていただくために、「岐阜大学フェアin高山」では私達の活動内容を紹介させていただきました。

私達学生スタッフは岐阜大学の学生の皆さんにもボランティアの魅力を発信するために様々な活動を企画し、行っています。この場をお借りして私達の活動を紹介させていただきます。

1つ目はツアーです。初めてボランティアに行く学生は、1人で行くことを不安に思う学生が多いです。そのような不安を感じなくてもいいように、あるボランティアについてツアーを組み、そのボランティアには私たち学生スタッフも一緒に参加します。

2つ目は他大学交流です。学生ボラネットの活動をより良いものにしていくために、他大学のボランティアセンターの学生スタッフの方々と意見交流しています。他大学では私達が取り組んでいない活動を行っており、そこから多くのことを吸収して私達の活動に活かしています。この他にも様々な活動に取り組んでいます。

このように、私達学生スタッフはボランティア活動にただ参加するだけではなく、どのようにしたら皆さんにボランティアの魅力を伝えることができるのかを考えて、様々な楽しい企画を立てています。「ボランティアに参加してみたいな」、「ボランティアに参加してみたいけど、どこに行けばボランティア情報があるのだろう」、「ボランティアを企画するのって面白そう!」と思った方は、ぜひ、大学会館1階、キャリアセンター内の窓口までお越しください!キャリアセンター前のホワイトボードでもボランティア情報を発信しているので、ぜひチェックしてみてください!!学生スタッフも大募集中です!!



就職支援室からのお知らせ

キャリアセンター

# 就職支援室の使い方

知らなきゃ損!

## ①窓口で話す・相談する(予約不要)

就活が不安だったり、疲れたりした時、些細な質問で「こんなこと聞いていいの」と思える時、どうやって利用したらいいかわからない時、どんな時もスタッフが笑顔で応えます。とにかく何でも聞いてみよう!



## ③本やDVDを借りる・新聞を読む

就職四季報やSPI等の適性検査の本、実施されたガイダンスのDVDを貸出しています。キャリアセンター内で見ることが可。日経新聞・中日新聞も閲覧できます。



## ②相談室を予約する(来室か電話。メール不可)

履歴書やESの添削、面接練習、他の人にあまり聞かれない深刻な悩み等は「就職相談室」を予約。混んでいる時もあるので予約はお早めに!

## ④OB・OG就職先や就職試験情報、求人票を閲覧する

学部・大学院すべてのOB・OG就職先リストを閲覧できます。また、先輩が残してくれた試験情報や、大学に直接届いた求人票があります。

就職支援室(大学会館 1階キャリアセンター内)  
受付・対応時間: 平日 8:45~16:45

TEL:058-293-2132・2164  
E-mail:job@gifu-u.ac.jp

平成28年度キャリア支援部門FD

## イノベーション創出若手人材養成部会FDを開催

11月2日(水)13時30分から地域科学部第1会議室において、株式会社リコー未来技術研究所顧問の山口高司氏をお招きし「企業における研究開発-博士人材の活用について」と題してFDを開催しました。

山口氏から、「今多くの産業分野で市場が成熟し、新規事業分野への進出と事業拡大が求められている。このため、企業の研究開発活動において新規分野における即戦力の高い専門技術者が必要となっている。これこそが博士人材である。」と博士人材への期待が述べられ、具体的にどのような期待がされているか事例紹介をまじえて講演がありました。

受講者からは、博士課程を出た人間は企業では扱いつらく、敬遠されがちだと多方面から言われたり聞いたりしていたため、今回の講演を聞いてとても心強く感じたとの意見がありました。



## キャリア支援部門FDを開催

11月17日(木)13時30分から地域科学部第1会議室において、尾関智恵氏(岐阜女子大学非常勤講師、各種研修講師ほか)を特別講師に「現場からの期待と新人の持つ不安、ギャップを乗り越える ~イノベーター創出に向けて~」と題してFDを開催しました。

現在就業環境のグローバル化が加速し、新卒者は組織を担うイノベーターとなるべく期待される反面、現場とのギャップに悩み早期退職するなど成長する前に断念する問題が起こっています。このことについて、新人と現場の思いや期待のギャップを事例から紹介し、大学生活で得られる学びからよりよい就業につなげるために何が必要なのかグループワークを取り入れて課題解決の検討を進めていきました。

受講者から、学生参加型の講演は今まであまり参加していなかったため、いつもと違う視点で“新人育成”に関するヒントがあって良かったとの感想が寄せられました。



グループワークの発表

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・土田 亮  
(キャリア支援部門長)

委員・坂口 菜朋子  
(キャリア支援部門副部門長)

委員・正村 隆弘  
(学生支援課課長補佐・就職支援室長)

委員・五味 進司  
(キャリア支援部門事務担当)

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア支援

TEL 058-293-3393

career@gifu-u.ac.jp

就職支援

TEL 058-293-2147・3362

job@gifu-u.ac.jp

イノベーション創出若手人材養成

TEL 058-293-3492

innova@gifu-u.ac.jp